

N K H

長岡市立科学博物館報

No. 39 1981

特集・御山焼



N K H

39号

1981年 3月

《御山焼》

—はじめに—

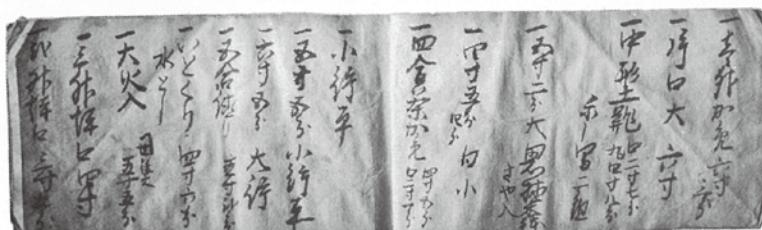
郷土の焼物『御山焼』をとりあげてみました。御山焼は、関原焼・麻生田焼と並んで近代長岡の代表的な陶磁器です。長岡藩の御庭焼から出発した歴史をもち、明治時代には日用の食器や什器を中心に大量の生産をみました。しかし、閉窯して久しいので、ようやく忘れられようとしています。ここに収録の作品は、窯元であった佐藤家をはじめ、窯の近辺の旧家に遺るものを中心にしてあげ編集したものです。ご鑑賞いただき、郷土文化の一端を探るよですがとなれば幸いです。（鈴木昭英）



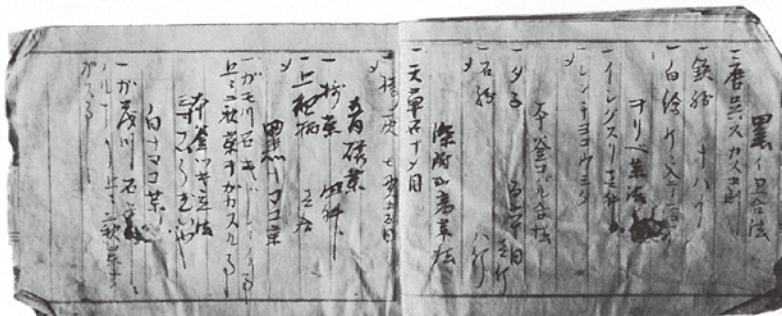
◀② 型・達磨
高14.3cm



③ 型・福助▶
高16.8cm



◀④ 『細工覚帳』
明治11年1月
佐藤広吉書留



◀⑤ 『合葉法』
明治25年9月
佐藤多吉書留

御山焼のあゆみ

御山焼は、長岡東郊の名勝地悠久山に築かれた窯で焼いた陶磁器の名である。悠久山には、長岡藩主3代牧野忠辰を祀る蒼柴神社が鎮まっているので、長岡の人たちはこれを“御山”と尊称してきた。だから、ここにある窯とその製品を御山焼と称した。

御山焼は、長岡藩主10代牧野忠雅が京焼の陶工清水六兵衛を招き、ここに窯を築いて焼かせたのが始まりと伝えている。天保14年（1843）のことであった。忠雅は天保11年正月京都所司代に任せられ、間もなく京都に赴任しているので、その在京中に六兵衛の清水焼に魅せられたらしく、これを招聘して、長岡での開窯と技術指導を頼んだようである。

その清水六兵衛は、初代という説もあるが、初代は寛政11年（1799）3月、62歳で没しているので、2代目六兵衛であったようだ。彼は、寛政2年（1790）に生まれ、静斎と号し、23歳の文化8年（1811）に初代の跡を継いだ。長岡へ来たのは50歳を過ぎていたから、油の乗りきった、陶芸技術が円熟の境に達していたころだろうといわれている。

六兵衛は京都の深草から土を運び、御山の土と練り合わせて、独特の土を作って焼いたという。彼が在岡中どのような活動をなし、生活を送ったか、知ることはできないが、その長岡に滞留中の作品と称するものが、蒼柴神社の宝物として、瓶子1対が伝えられており、その焼成技術の高さをしのぶことができる。しかし、藩は財政難に苦慮している最中であり、お庭焼でありながら、わずか四年にして窯を閉じることになった。六兵衛は京都へ引揚げたようである。

しかし、幸いにも御山焼を再興する者が現われた。佐藤広吉（文政11年～明治24年、呼び年64歳）という人である。広吉の父親仁作（文化2年～明治17年、80歳）は、佐藤家の伝えでは、今の長岡市深沢町近くの小沢に住んでいたというから、広吉はそこで生まれ、やがて御山にやってきたように考えられる。御山焼に携わることになって、この地に住みついたようである。しかし、広吉は、六兵衛からその技術を習ったのではないらしく、六兵衛の門人子（ね）之松より伝習し、嘉永6年（1853）に再興したといわれている。

広吉が窯を再興した後は、佐藤家の家業となる。藩窯から民窯にきりかわったわけで、焼物は日用品、生活必需

品を中心に生産することになった。次第に発展し、量産が行われるようになる。明治10年（1877）に開催された内国勧業博覧会には、広吉は摺鉢1個と茶瓶2個を出品した。その当時の生産高は年間1万3千個に及び、その価格は130円であったという。平均1個1銭の売値ということになる。広吉が翌明治11年1月に書き留めた『細工覚帳』を見ると、瓶・徳利・草生津土瓶・中形土瓶・源氏形土瓶・汁茶碗・平・片口・わさびおろし・釜・六角鉢・甕・茶甕・小こんろ・火入・糸くり・植木鉢などの品目がうかがわれる。いわば台所や茶の間の生活用具が主体であった。ここで焼かれたものは、表三之町の薬種屋小林太郎兵衛によって、一割の口銭で売られたという。

その製法については、明治11年内国勧業博覧会に出品したときの解説書によく語られている。「字前山の土を探り、これを眷き碎き、淘し、水を飛ばし、竹簀に濾過し、沈淀するのを取って板の上に移し、乾して輪車に載せ、籠をもって造り、乾して素焼きし、釉薬は定粉を抹し、窯に入れ、焼成する」ものであった。

窯は登窯で、はじめはもと科学博物館のあった地所の東裏のあたりに築いていたが、後に反対側の山手に移した。その技術はやがて長男の多吉（生没年未詳）に受け継がれた。初代広吉、2代多吉の活動した明治時代が、御山焼の全盛時代であった。多吉に子がなかったので、やがて多吉の弟忠蔵（明治7年～昭和6年、58歳）が三代を継ぎ、その後の四代を忠蔵の子広吉（明治35年～昭和41年、65歳）が継いだ。しかし、大正になれば県外産の瀬戸物が大量に流入し、御山焼の需要が減り、玩具などをあって命脈を保つという状態であった。完全な閉窯は昭和7・8年頃といわれている。

御山焼の歴史については、今泉省三氏『長岡の歴史』第3巻（野島出版、昭和45年2月）、石川秀雄氏『越後の陶磁』（雄山閣、昭和51年8月）に解説されている。両書に負うところが大きい。合わせてご一読いただきたい。



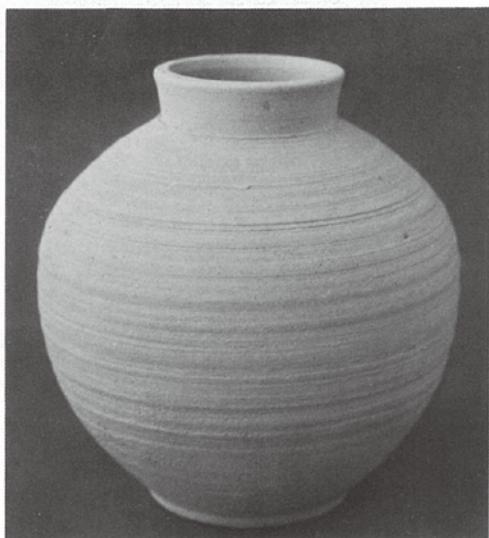
⑥ 瓶子 高13.3cm 口径8.3cm 脇径14.6cm 清水六兵衛作（長岡市指定文化財）

清水六兵衛作 瓶子（1対）

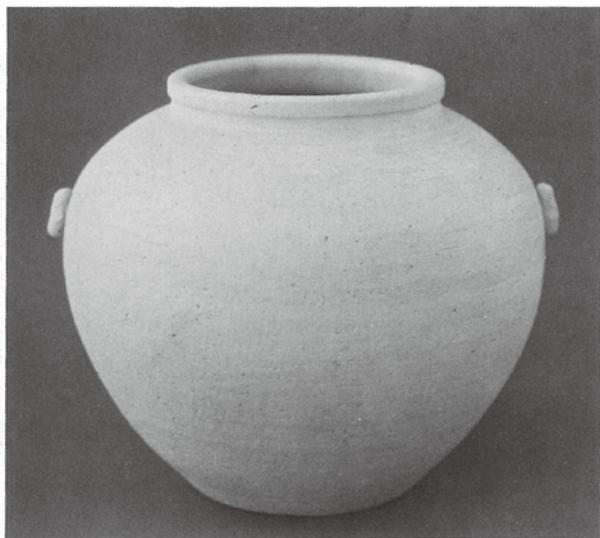
御山焼の創始者、清水六兵衛の作と伝える瓶子（1対）が、悠久山の蒼柴神社に所蔵されている。瓶子は酒をいれて注ぐ器であるが、焼きもよく、釉薬の光沢がすばらしく、すぐれた作品である。御山で窯を起こし（悠久焼）、陶磁の研究をしていられる大川民治郎氏によると、この瓶子は、鉄分の多い木節系統の粘土を丁寧に水巻してロクロにかけ、1300度くらいの、ほとんど還元焰に近い焰で焼いているという。釉薬は、糖白薬で、釉の熔解をよくするため呉須が混ぜられている。

⑦ 湯呑 高5.2cm 径7.9cm





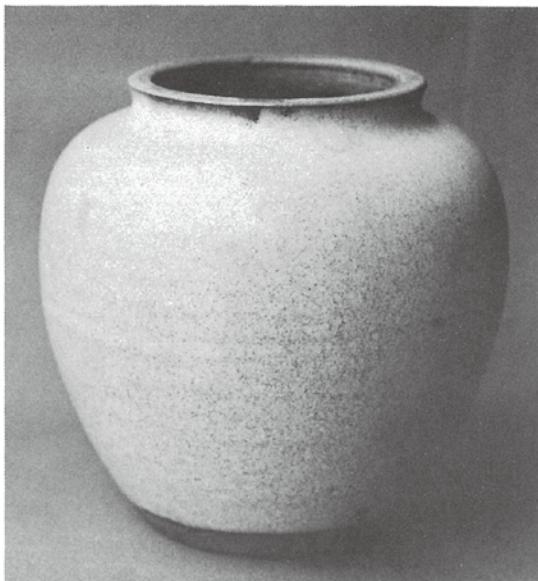
⑧ 壺(素焼) 高14.0cm 口径5.8cm 胴径13.4cm



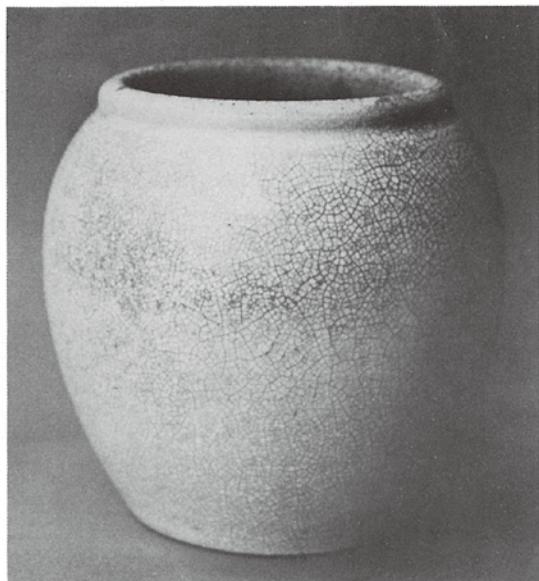
⑨ 二耳壺(素焼) 高15.5cm 口径10.2cm 胴径17.5cm

⑩ 湯呑 高5.5cm 径6.2cm

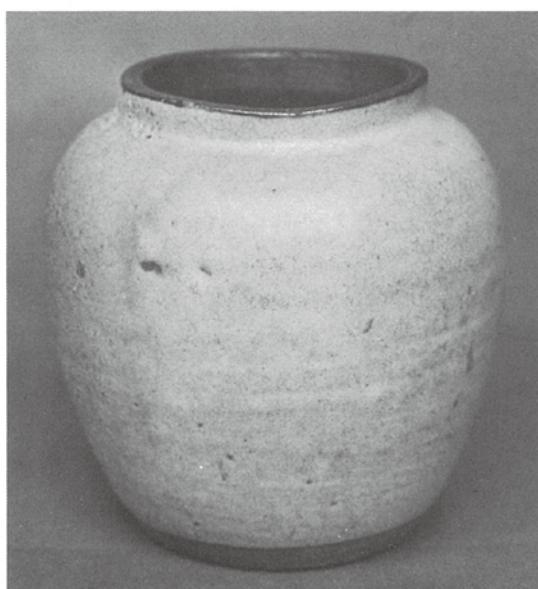




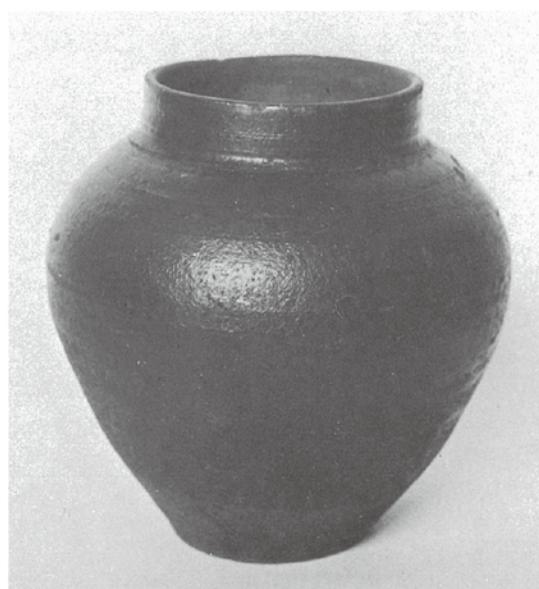
⑪ 壺 高15.5cm 口径9.8cm 胸径16.2cm



⑫ 壺 高17.8cm 口径13.4cm 胸径18.2cm



⑬ 壺 高15.8cm 口径9.7~10.0cm 胸径15.3cm



⑭ 壺 高14.0cm 口径7.8cm 胸径13.5cm



⑯ 達磨手あぶり 高25.3cm 胸径22.5cm



同左後部



⑯ 切立甕 高16.0cm 胸径18.8cm



⑰ 切立甕 高16.5cm 胸径17.5~18.0cm



⑯ 大 黒 高12.3cm 夷 高12.5cm

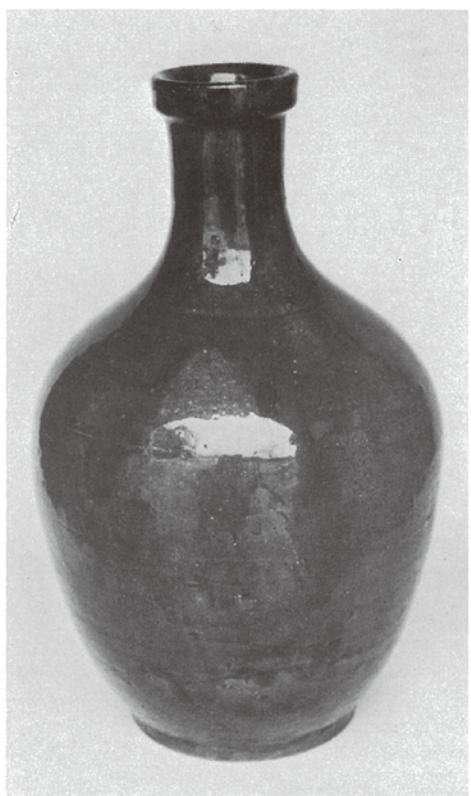


⑰ 印 (花鳥)
高 4.4cm
台長4.5cm
台幅1.2cm

⑱ 大德利 高33.0cm 胸径21.0cm

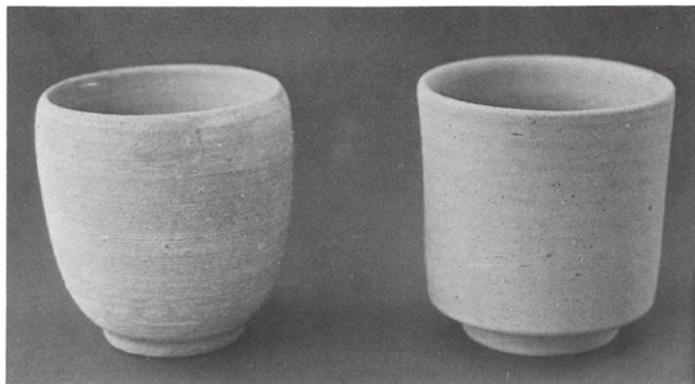


⑲ 小形七輪 高13.8cm 径14.4cm





②2 一輪ざし 高5.6cm 胸径7.0cm



②3 湯香 左 高7.7cm 胸径7.4cm 右 高7.2cm 口径7.0cm

②4 一輪ざし
高170.0cm 胸径 10.5cm②5 花立(素焼) 左 高17.1cm 口径9.3cm
右 高18.5cm 口径9.5cm

~~~~~掲載資料の所蔵者~~~~~

- |                               |                |
|-------------------------------|----------------|
| 1 ~ 5 • 7 • 17 • 18 • 19 • 26 | 佐藤 広英氏(長岡市御山町) |
| 6                             | 蒼柴 神社(長岡市悠久町)  |
| 10 • 14 • 15 • 20 • 22        | 星野 陽一氏(長岡市御山町) |
| 11 • 12                       | 大野 泰一氏(長岡市御山町) |
| 13 • 16 • 21                  | 山沢 重久氏(長岡市御山町) |
| 8 • 9 • 23 • 24 • 25          | 長岡市立科学博物館      |

## 昭和55年度事業報告

### 資料収集・調査

#### 〔植物研究室〕

- 植物分布調査 4月、三島郡出雲崎町
  - 植物資料同定 6月、新潟市
  - 植物分布調査 6月、新潟市
  - 資料収集打合せ 7月、新潟市
  - 植物分布調査 7月、南蒲原郡下田村
  - 植物生態調査 7月、北魚沼郡湯之谷村
  - 植物分布調査 8月、新潟市
  - 同 9月、三島郡越路町
  - 植物分布調査打合せ 9~11月、新潟市(4回)
  - 研究打合せ 1~3月、新潟市(4回)
- 〔昆虫研究室〕
- 昆虫分布調査 6月、中頸城郡柿崎町、中魚沼郡津南町
  - 同 7月、北魚沼郡湯之谷村
  - 同 9月、北蒲原郡中条町、東蒲原郡上川村
- 〔動物研究室〕
- 鳥類文献調査 5月、新潟市
  - 研究論文打合せ 5月、新潟市
  - カモシカ収集調査 5月、中蒲原郡村松町、北蒲原郡黒川村
  - 鳥類分布調査 5月、東頸城郡松之山町
  - カモシカ収集 6月、北蒲原郡黒川村
  - 鳥類分布調査 7月、北魚沼郡湯之谷村
  - 同 10月、岩船郡粟島浦村
  - 研究打合せ 3月、新潟市(2回)
- 〔歴史民俗研究室〕
- 民俗調査 6月、南魚沼郡塩沢町、中魚沼郡川西町
  - 同 9月、三条市、南魚沼郡六日町、西蒲原郡岩室村
  - 民具資料収集 3月、岩船郡関川村

### 学会・研修会・協議会

- 新潟県博物館協議会総会 4月30日、新潟市(参加:鈴木館長)
- 新潟県生物教育研究会第18回大会 5月24・25日、新発田市(参加:樋熊館長補佐)
- 第22回北信越博物館協議会総会 6月19・20日、富山市(参加:鈴木館長)
- 日本陸水学会第45回大会 6月6日、新潟市(参加:樋熊館長補佐)
- 新潟県博物館協議会運営研究会 7月2・3日、西蒲

原郡弥彦村、三島郡出雲崎町(参加:鈴木館長、外山係長)

- 新潟県博物館協議会学芸員等職員研修会 9月2・3日、中蒲原郡横越村(参加:鈴木館長、佐藤主事)
- 第32回日本民俗学会大会 10月4・5日、金沢市(参加:鈴木館長)
- 日本蛾類学会 1月25日、東京都(参加:樋熊館長補佐)
- 自然保護講座 3月7日、東京都(参加:西山主査)
- 新潟県博物館協議会役員会 3月24日、新潟市(参加:鈴木館長)

### 普及活動

- 春の植物をしらべる会  
4月27日 栖吉町・風谷周辺、講師:植物研究家 坪谷富男先生、参加者38人。
- 夏の植物をしらべる会  
7月20日 県立東山自然公園、講師:新潟市立高志高校 牧野恭次先生、参加者27人。
- キノコをしらべる会  
9月23日 栖吉町・スキ一場周辺、講師:元県立六日町女子高校 松田一郎先生、参加者116人。
- 早春の植物をしらべる会  
3月29日 三島郡蓮華寺~小木の城、講師:牧野恭次先生、参加者23人。
- 昆虫相をしらべる会  
宮路町・石動神社周辺に分布する昆虫類の生息状態を調査する。講師:昆虫研究家 山屋茂人先生。  
第1回 4月20日、参加者14人。第2回 5月18日、6人。第3回 6月15日、21人。第4回 7月20日 59人。第5回 雨天中止。第6回 9月21日、24人。第7回 10月26日、5人。第8回 雨天中止。
- 野鳥相をしらべる会  
栖吉町・風谷~不動滝周辺の野鳥類の生息状態を調査する。  
第1回 4月20日、19人。第2回 5月18日、25人。第3回 6月8日、20人。第4回 7月13日、23人。第5回 8月24日、10人。第6回 9月21日、15人。第7回 10月26日、1人。第8回 11月16日、13人。
- 西山探鳥会  
5月25日 大積灰下町~大積千本町(赤池周辺)、講師:野鳥研究家 根津和育先生、参加者27人。
- 信濃川探鳥会  
6月22日 信濃川左岸・長生橋下流、参加者27人。
- 悠久山・百間堤探鳥会  
11月30日 講師:県立栃尾高校 関根正平先生・長岡



